

## 技工室とともに32年

診療支援部歯科技工部門 熊倉 喜久夫  
医歯学総合病院・歯科技工士



技工室に歯学部ニュースの原稿依頼があった時、平成19年の第1号（通算111号）で技工部門長がすでに載せていると言うことで私に回ってきた幸いです。技工室の業務や紹介など

111号に掲載済みなので省略させていただきます。となると「技工室だより」に書くことが無くなってしまふので恐縮ですが私事に切り替えました。

私が昭和51年12月に採用されてから既に30年以上たちます。当時技工室には松田先生（技工士学校と技工室長兼務）をはじめ佐々木さん、小柳さん、他県出身の河西さんたちがおり、講師以上の先生方の技工を主にしていました。その後昭和53年に新潟大学歯学部附属歯科技工士学校の1回生が卒業とともに技工室に加わり、ここから6人体制が始まりました。その後、技工室のメンバーも他大学への移動や開業等で去る人もいましたがその都度補充され今に至っています。

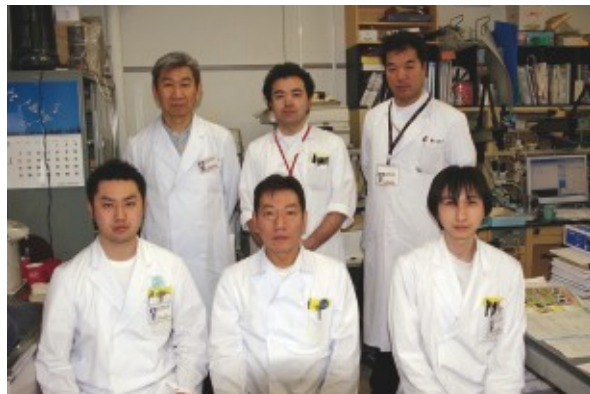
私が入ったところと今では仕事の内容もいろいろと変化してきました。昭和51年当時、前装冠は人工歯（レジン歯や陶歯）を削合し金属で裏装していたものがレジンペーストを築盛、加熱重合するタイプに変わり、今では光と熱で重合するハイブリッドレジンが主流になってきています。もちろんメタルボンドクラウンも当初から盛んに作られていましたが製作時のトラブル（焼成時におきるクラックや変形）も多く悩まされたものです。これも今は陶材と焼付用金属の改良が進み、トラブルも少なく非常に仕事もやりやすくなっています。有床義歯では金属床の仕事が多く出ていました。非貴金属系のコバルトクロム床は今と同じく

外注ですが、貴金属系、特に白金加金床は数が多く全て技工室で製作していました。昭和55年頃、コーヌステンチャーが出始め白金加金床義歯はコーヌステンチャーへと移行するかの様に数が減って行きます。また私が初めてインプラント上部構造の技工をしたのも昭和55年頃です。その後は補綴や口腔外科から偶に出るくらいでしたが、近年ITIやブローネマルクシステムに変わるとインプラントの技工が急激に増えました。今では技工室での仕事もインプラント関連が多く占めるようになっていました。また技工製作物の変化とともに技工室の機器も変わってきました。研磨用レーズやリングファーンエスなど私が入る以前から使用している物もありますが、鑄造器は遠心から吸引加圧へ、ポーセレンファーンエスも手動から自動へ変わり、最新のものは温度誤差が少なく自由に焼成プログラムが組めて低温焼成用陶材にも対応したオートファーンエスも入り便利になりました。また先端技術のレーザー溶接機も7年ほど前から技工室に設置されています。破折したクラスプやバーの溶接修理、コンタクトの盛り上げなどその日の内にやれるようになった事は画期的ですが、強度を保ちながら変形を抑えなければいけない溶接は熟練を要する技術で神経を使います。近年専門外来からの技工も増え、内容も多様化してきました。それに対応するため技工室では行動目標として「診療の円滑化に貢献する」を掲げ日々研鑽に努めています。

さて、昨年小柳さんと女性の木村さんが退職されました。その後2人の仕事を分担しながら4人体制での1年間はとても忙しい毎日でした。しかし今年（平成21年1月1日）から新人二人が技工室に入り、また従来の6人体制にもどる事が出来

て安堵しているところです。名前は長谷川さんと荒井さん、どちらも新潟大学の技工士学校出身です。いま二人は技工室の仕事を覚えようと毎日奮闘しております。技工経験も豊富でこれからが楽しみな若者です。大きな戦力となる彼らが加わったことで技工室も活気が出てきました。おかげで技工室の平均年齢がぐっと若返り私が最長老となってしまいました。趣味のスキーとバードウォッチングの時間が取れそうで嬉しいයි。

ところで毎年12月に入り天気予報に雪マークが出る頃になるとスキー場のことが気になり、友達とメールや電話のやり取りが頻繁になります。スキーは技工室に入ってから始めたもので既に30年以上続けていることに成ります。滑っている時の爽快感は全ての憂さを晴らしてくれるので止められません。ただ最近のスキーは「ガンガン滑る」と言うよりは志賀や妙高方面、たまに蔵王など温泉付きスキーが多く成りました。そしてもう一つの趣味バードウォッチングは25年以上、マイフィールドは西海岸から青山小学校にかけての林。春と秋、野鳥の渡りの季節に鳥を探して楽しめます。また「新潟野鳥の会」の有志の方々に誘っ



ていただく毎年7月初旬の蓮華温泉一泊探鳥会も楽しみの一つです。白馬岳蓮華温泉ロッジに泊まり翌朝小蓮華山(2,766m)を目指す探鳥コースで夜明け前に出発、天狗の庭、白馬大池、雷鳥坂、時間と体力に余裕があれば小蓮華山まで約6時間掛けて登ります。ここでは標高が高くなるにつれ野鳥の種類が変わり、その囀りを聞きながらの登山は最高です。そして運良く雷鳥坂に生息している雷鳥に出遭えたりしたら(今までに出遭えた確率5割)もっと最高です。昨年、一昨年と忙しくてあまり行くことが出来なかったスキーとバードウォッチング、仕事のことを忘れ趣味に没頭できる時間を今年は作りたいと思っています。

